

岩村城を守る

発足した守る会に参加を



蒼むした石畳の登城坂を山頂まで登ると、壮大な石垣が眼前に迫ってきます。全国的にも数少ない近世山城の岩村城。1873(明治6)年の廃城令で建物は解体されましたが、累々とそびえるその石垣は、高い歴史的価値を備えています。本丸が全国で最も高い標高717^{メートル}の山頂に築かれたことから、日本三大山城の1つといわれ、(財)日本城郭協会の「日本100名城」に選定されています。

その岩村城跡が、長い時間の経過とともに荒廃の危機にさらされています。今回は、わたしたちの大切な歴史遺産である岩村城跡について、地域での活動を紹介しながら、「岩村城を守る」をテーマに特集します。

☐問い合わせ 文化課 43-2112(内線215)

いま待ったなしの状況

岩村城では、これまで部分的な石垣の補修や、登城坂の整備などを行っているものの、計画的な保存整備は行われていないのが現状です。長い時間の経過とともに、ゆがみが大きくなっている石垣や、大雨が降ると土砂が流れてしまうところもあります。

市では文化的な価値を明らかにするため、平成20年度から調査を実施しています。これまでの調査では、石垣一面ごとの台帳作成や発掘調査などを行ってきました。



▲岩村城跡で行われた発掘調査

発掘調査では、本丸部分の土質の違う整地層や山茶わんなどの出土物を確認。戦国時代から江戸時代にかけての造成工事の経過が、明らかになっています。これらの調査で得られた成果は、今後の保存や整備に向けた基礎的なデータとなります。

全国各地に残る城跡では、計画に基づいて整備が進んでいるところが数多くあります。あちこちで郷土の歴史遺産を見直し、整備活用していく機運が高まっています。

岩村城をどう守っていくか。市民の皆さん全体で、考える時期に来ているのではないのでしょうか。

国史跡の指定を目指す

わたしたちのかけがえのない財産として、岩村城を守り後世に伝えていくため、目標を持った取り組みが必要となっています。計画的な保存整備の実施や歴史的な価値の研究と普及に取り組み、国史跡への指定を目指します。

そして市民に愛され親しまれる恵那市のシンボルとして、城下町と一体になった活用を図ります。

保存のためのPR活動

岩村城は地域のシンボルとして、地元の人々を中心に、その保存や啓発のための、さまざまな活動が行われています。

流した汗がお城の美化に

岩村町のまちづくり実行組織「城下町ホットいわむら」の呼び掛けで、岩村城を美しくする一斉清掃を、毎年3回ほど実施。地域の方に中学生のボランティアや消防団員も加わり、おのおのが草刈機やかまなどを手に、汗を流します。

▼多くの方の協力による草刈り作業



岩村城を守る会が発足

昨年3月、岩村城を国民の財産として守り活用することが必要と考へ「岩村城を守る会」が発足、活動を開始しました。

一緒に活動する会員募集

- 入会資格 岩村城をよなく愛し、歴史文化に関心のある方で本会の趣旨に賛同する方
- 年会費 年額1000円(本年度は徴収しません)
- 事業内容 ①城跡の整備 ②城跡の保護並びに顕彰 ③資料の収集保存並びに調査研究 ④講演会の実施 ⑤観光資源としての整備及び発信、誘客 ⑥そのほか目的達成に必要な事業
- 申し込み 岩村城を守る会事務局(文化課内)

43-2112(内線215)

▼ザ・縁日の花火で城再建をアピール



の活動ではなく、誰もが参加できるように」と意気込み、より大勢の参加を、呼び掛けています。

幻の城で再建をアピール

夏の夜、ライトアップされた城山に浮かび上がる「幻の霧ヶ城」。城の再建をアピールしようと、岩村城再建構想実行委員会が、毎年、設置しています。このページの背景になっている幻の城は、三重櫓を60枚のパネルに描き、高さは約21^{メートル}あります。

また再建するための募金を集めようと、毎年8月13日には「ザ・縁日」ふるさと創生花火」を開催。城の再建という壮大な目標が、祭りや花火といった夏の風物詩とつながって、市民や帰省した皆さん

かがり火の幽玄な世界を

岩村城藩主邸跡の野外に、特設の舞台を設けて行われる「いわむら城址薪能」。かがり火の灯りと老松を背景とした幽玄な雰囲気の中、薪能が演じられます。ことしで26回を数え、実行委員会による地域ぐるみの開催で、伝統行事として定着しています。

薪能など、岩村町の行事を通じて「岩村城と城下町の町並みを地域の誇りとして、末永く愛し守っていきたい」との思いを、市民の皆さんや訪れた大勢の観光客にPRしています。そして、歴史的な資源や伝統文化を守ろうとする心を、大きく育てています。

